

新しい大阪へ

橋下「維新」政治

おもしろい!

私はずっと前市長の平松邦夫さんと一緒に今回のダブル選挙に向けて活動してきました。そうする中で、平松さんほど、大阪を愛し、大阪のことを考えておられる人はあまりおられないのではないかと確信しました。そして、それゆえに、橋下氏（橋下徹大阪市長・大阪維新の会代表）からいわれない誹謗（ひぼ



大阪メンズアパレル工業組合 理事長

中野 雅司さん

（平松氏は16日、自らは知事選に出馬せず無所属で立候補する自民党府議の栗原貴子氏を支援し、市長選でも無所属で出馬する自民党市議の柳本頭（あきら）氏を支援することを明らかにしました）

どちらを選ぶか

私はいま、新自由主義が終わりかけていると思っていて、新自由主義が終わった後に何があるのかという

と、少数の幸せか多数の幸せかどちらの社会を選ぶのかだと思えます。

新自由主義がまん延し、大阪は非正規労働者の割合が全国2位、府の総生産は7年前に比べて全国5位から14位になり、経済が大きく落ち込みました。

立命館大学の森裕之先生にかつての「大大阪」時代の全盛期を築いた関一（せき・はじめ）大阪市長時代（1923年〜35年）のこ

とを教えてもらいました。大阪をよくするために関さんが第一に考えたことは

市民の生活でした。それと対照的なのが東京市です。東京市長がまずしたのは港湾や橋梁（きょうりょう）などのインフラ整備です。当時でも国から回ってくる

お金は東京の方が多くて大阪は少ない。それを大阪の商人も一緒になって盛り上げ、大阪の人口、経済が東京を上回るような時代が

ありました。 当たり前前の政治

人々の生活に重点を置くというのはごく当たり前のことです。保守だとか革新だとかは関係なく、そういう政治をめざしていくきっかけになるのが今度のダブル選挙です。みなさんと力を合わせて11月22日、結果を喜び合いたいと思えます。（大阪市内での集会のあいさつから）

住民不在の政治 終わらせよう